令和２年６月２５日

筑波大学

健幸イノベーション開発研究センターを設立

国立大学法人筑波大学（学長：永田恭介、以下「筑波大学」）は、令和２年７月１日付けで、「健幸イノベーション開発研究センター」（センター長：坂本和一　筑波大学生命環境系　准教授）を設立します。同センターは、健康長寿の促進に向けた機能性素材と機能性環境の開発研究を推進することを目的としています。

少子高齢化と労働人口の減少が加速度的に進む昨今、健康寿命を伸ばす方法や技術、具体的サービスの開発研究は益々重要性が増しています。

本センターは、食素材と食以外の外用素材の機能性、および香りや光などの感覚刺激の機能性などを様々なモデル生物系を用いて評価し、健康長寿の促進に関わる素材や環境の開発研究を推進します。さらに、社会実装に向けた技術・方法を開発し、具体的サービス（製品化プロトコル、コンサルタント、情報発信等）の提供を通じて健康長寿社会の実現を目指します。

つくば地区には、筑波大学をはじめ多くの研究機関や企業があり、個々にあるいは共同で食品や健康素材の機能性に係る開発研究を進めていますが、統合的な拠点がありません。そこで、つくばの地域性を生かし、領域や研究組織を横断的かつ総合的に、基礎から応用へのシームレスな開発研究体制を備えた「健幸イノベーション開発研究センター」（英語名：R&D Center for Wellness Innovation）を設置します。

本センターを拠点として、心身共に健康な健康長寿（ウェルネス）社会の実現を目指します。期待される社会的意義や効果は以下の通りです。

（１）産官学連携

本センターを設置することにより、これまで個々に実施してきた研究を効率的・統合的に発展させることができ、研究成果を共有して効果的に産官学連携研究を推進することが可能になる。これにより、健康長寿社会実現に向けた異分野連携や新規産業創出などの波及効果が期待できる。

（２）国際連携

本センターを設置することにより、横断的かつ総合的に開発研究を推進することが可能となり、海外の大学・研究機関や企業との人材交流が活性化され、国際共同研究が促進される。これにより、国際共同研究論文の発表が期待できる。

（３）人材育成

本センターを設置することにより、包括的かつ横断的な研究環境を整備することが可能となり、新技術の開発および国際的に活躍できる人材の育成を推進できる。

名　　称　　健幸イノベーション開発研究センター

英語表記　　R&D Center for Wellness Innovation

組織構成

（１）リサーチ部門

・食素材および非食素材による機能性を開発研究する。

・香りや光などの感覚刺激の機能性を開発研究する。

（２）情報・広報部門

・企業・団体が求める真のニーズや喫緊の社会課題を把握・分析し、それにマッチした本センターの成果を発信する。

（情報発信、セミナー、公開講座、啓発活動、マスメディア活用など）

・研究者と企業人とのオンデマンドな情報交換を推進する。

（３）事務局

・産官学連携、知的財産、研究支援・総務・会計・管理運営業務、実験・研究補助等の

業務を行う。

本センターの基盤的な運営費は、参加企業等との共同研究資金です。研究の進展に伴い、受託研究、複数企業との共同研究、各種競争的資金を計画的に取り入れていきます。

「開発研究センター」【注釈】

社会還元型の研究を推進しイノベーション創出を促進するために、外部資金等を事業運営費として、社会的要請の高い学問分野での共同研究開発を積極的に推進し、産学官の共同研究体制を構築する組織。期間は5年で延長もできるが、外部資金での運営が不可能になった時点で廃止となる。筑波大学のミッションである教育、研究、社会貢献のうち、社会貢献のミッションを担う新たな組織として平成27年7月1日付けで創設された。名称は「開発研究センター」とし、筑波大学国際産学連携本部のもとに開設される。

■問い合わせ先

国立大学法人筑波大学

生命環境系　准教授　坂本　和一

TEL　029-853-4676、Mail: sakamoto@biol.tsukuba.ac.jp